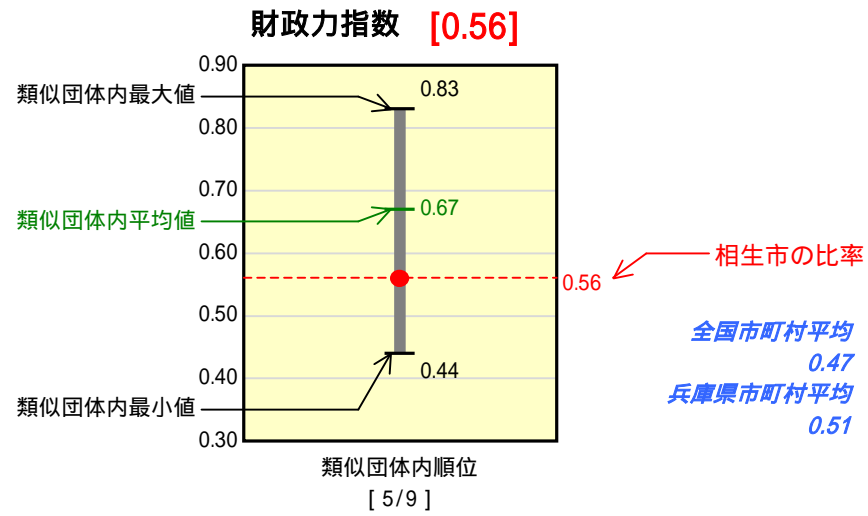


市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

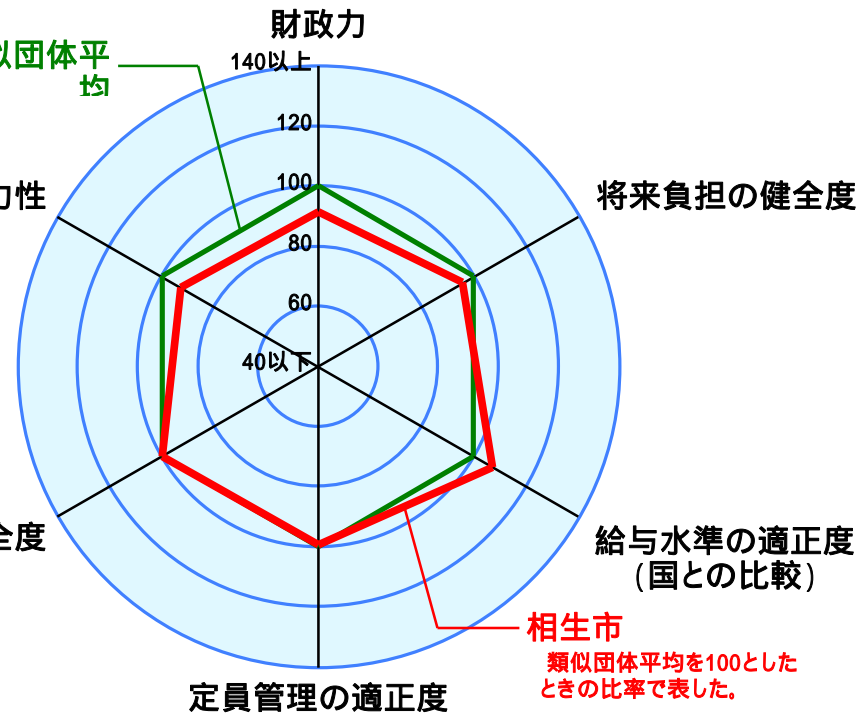
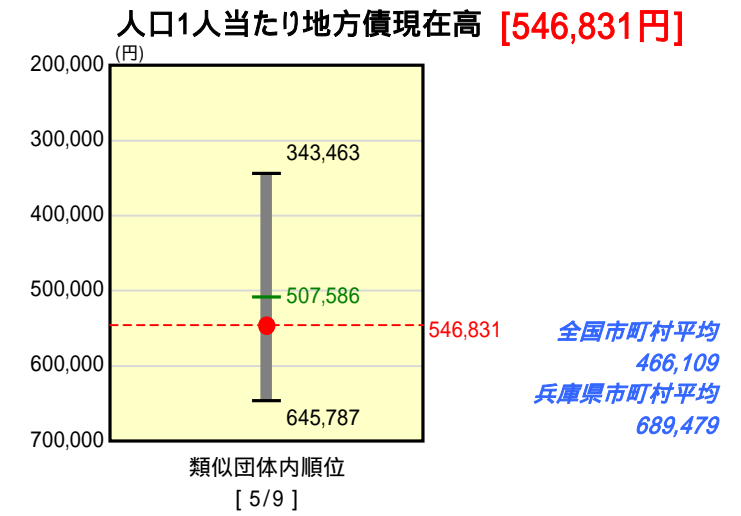
兵庫県 相生市

人口	32,894 人(H17.3.31現在)
面積	90.43 km ²
歳入総額	15,102,671 千円
歳出総額	14,764,346 千円
実質収支	331,666 千円

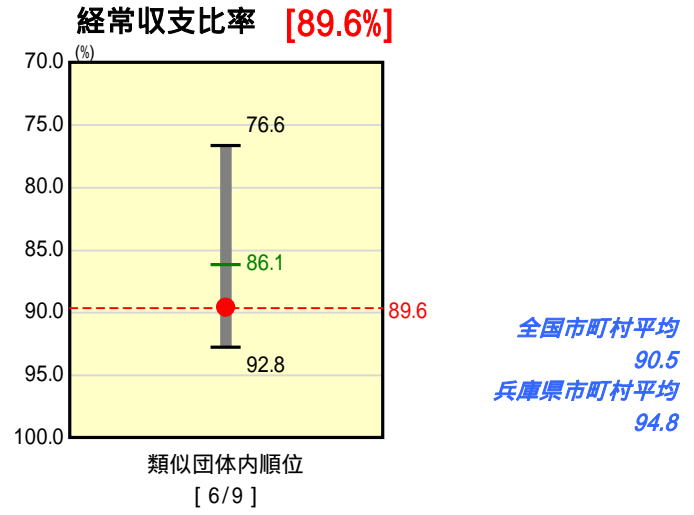
財政力



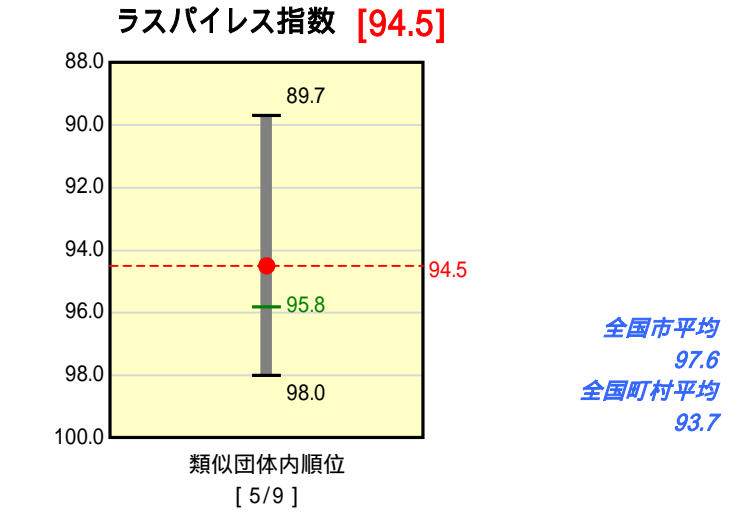
将来負担の健全度



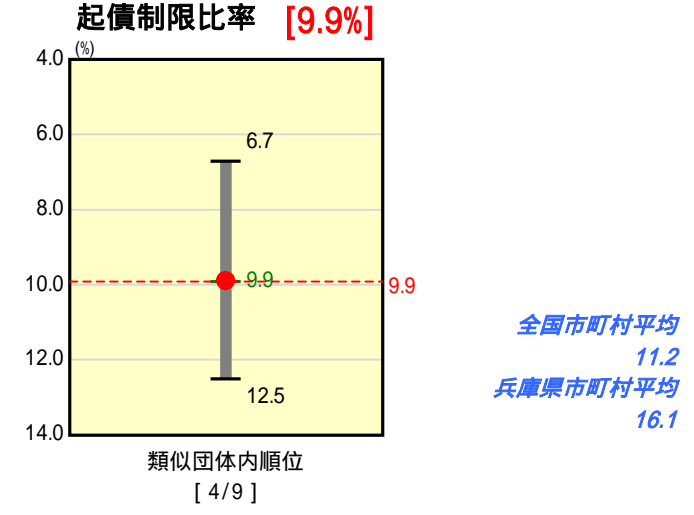
財政構造の弾力性



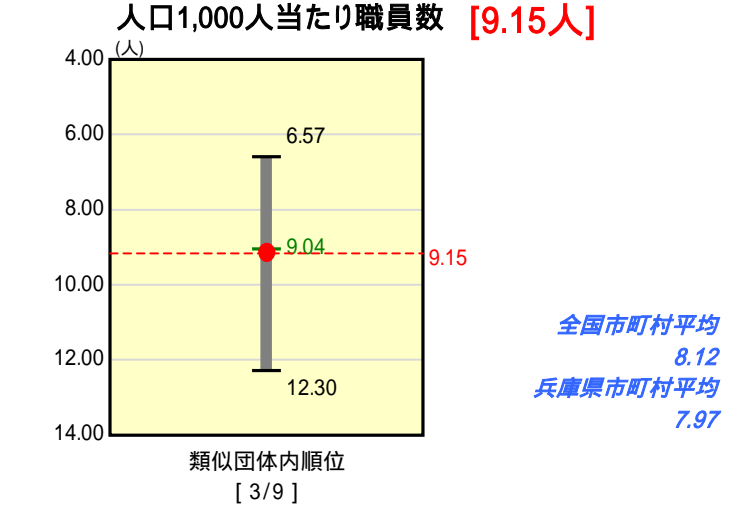
給与水準の適正度(国との比較)



公債費負担の健全度



定員管理の適正度



分析欄

財政力指数： 継続して予算規模を抑制してきたことにより、ここ3年間連続して上昇しているが、基幹産業である造船業の低迷や、高齢化率の上昇(H16年度末 24.05%)などによる税収の落ち込みが大きく、類似団体と比較すると依然として低い水準となっている。このため、平成18年度から5年間の「行財政健全化計画」を策定し、予算総額の20%削減を目標に、歳出の徹底した削減に取り組むこととしている。

経常収支比率： 義務的経費の増加(対前年度比2.0%増)や税収の減少(対前年度比0.4%減)に伴い、上昇が続いている。平成18年度から5年間の「行財政健全化計画」においては、人件費について、職員数の減(5年間で41人減)等により、職員給などで17.6%減とするほか、投資的経費の削減(平成20年度以降4割減を目標)に伴う地方債の新規発行の抑制などにより、公債費で5.3%減とすることを目標とし、経常経費の抑制に努める。

起債制限比率： 類似団体平均と同率となっているが、平成19年度に公債費がピークを迎える見込であり、毎年上昇する傾向にある。「行財政健全化計画」に基づく投資的経費の削減(平成20年度以降4割減を目標)に伴い、地方債の新規発行を抑制することとしている。

人口一人当たり地方債現在高： 投資的経費において大規模な継続事業を行ってきたこと、人口の減少により、前年度に比べ、8,555円(1.6%)の増となっており、類似団体平均を上回っている。今後、「行財政健全化計画」に基づく投資的経費の削減(平成20年度以降4割減を目標)に伴い、地方債の新規発行を抑制し、現在高の減少に努める。

ラスパイレス指数： 給与水準については、国公準拠を基本として取り組んでおり、各種手当の見直しを行うなど、適正な給与水準を維持してきた。本指数は、経歴年齢階層によって国平均より低い階層が多く、全国市平均を下回る水準となっているが、今後においても、引き続き給与適正化に向け取り組むこととしている。

人口千人当たり職員数： 前回の第2次定員適正化計画(計画期間H12～H17)において、組織の統廃合縮小及び退職者不補充などにより、最終計画値を47人下回る削減を行ってきた。今後、「行財政健全化計画」に基づき、人件費の削減に取り組むこととしており、今後5年間における第3次定員適正化計画において、アウトソーシングの推進などにより、さらに41人(11.6%)の削減を図ることを目標としている。